

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅢ (4 単位)	3. 科目番号	SSMP3157 SNMP3357 SCMP3357 SBMP3157 SPMP3157 PSMP3457
2. 授業担当教員	北爪 克洋		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅢは、ソーシャルワークⅠ・ソーシャルワークⅡで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理、ソーシャルワークプロセスと付随する専門技術等を前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、多様な課題と支援の必要性を持つ現代社会のクライアントに、より専門的に対応、その課題等の解消と軽減に向け働きかけることのできる知識・技術としての実践理論・アプローチについて学習する。加えて、グループを用いた支援、あらゆる場面で必要とされるコーディネーションとネットワーキング、関連する社会資源の調整と開発など、クライアントへの直接的・間接的相談援助技術について総合的・包括的に学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの定義と「相談援助」の対象について再確認する。 2. ケースマネジメント（ケアマネジメント）についてその概要を理解する 3. グループを活用した支援について理解する。 4. コーディネーションとネットワーキング、社会資源の調整・開発について理解する。 5. ソーシャルワーク実践モデルとアプローチの概要と実践方法について理解する。 6. スーパービジョンについて理解する。 7. ケースカンファレンスについて理解する。 8. 実践事例を通じて、相談援助に必要な専門知識・技術について横断的に活用ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題1: グループを用いた援助実践に関して、その展開過程とそこでのソーシャルワーカーの果たすべき役割について説明せよ。</p> <p>レポート課題2: 心理社会的アプローチについて事例をもとにその支援展開を解説せよ。</p> <p>レポートはいずれもA4 2枚(2880字)にまとめる。</p> <p>※その他「事後学習」に示されている各課題を実施。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅱ（新・社会福祉士養成講座8）』第3版、中央法規、2015年。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8つの目標を達成することができたか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 平常点（授業態度・発表・発言・学習課題など）20%、 (2) 課題レポート 30% (3) 試験 50% <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>ソーシャルワークⅢでは主にソーシャルワーク実践に不可欠な実践モデルについての学びを深めます。また、ソーシャルワーク論の総括を行います。したがって学生たちは授業の復習や準備を欠かすことなく授業に臨んでください。授業では常に高い緊張度と集中力を維持する必要があります。</p>		
13. オフィスアワー	<p>別途通知します。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション： ソーシャルワークⅢを学習するにあたっての説明と確認 ソーシャルワークⅠ・Ⅱの振り返り	事前学習	テキストの「はじめに」を熟読し、その内容を要約しまとめる。
		事後学習	IFSWによるソーシャルワークの定義をレポートにまとめる。
第2回	ソーシャルワークの概念： IFSWのソーシャルワークの定義から	事前学習	「社会福祉とは」の問いに対する自身の考えをこれまでの講義等を参考にまとめる。
		事後学習	IFSWによるソーシャルワークの定義をレポートにまとめる。
第3回	ソーシャルワークの理念：人権と社会正義、自立支援とエンパワメント等について理解を深める	事前学習	テキスト pp. 2～25 の内容を熟読しまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第5回の講義時に提出する。
第4回	ソーシャルワークの対象者を理解する： パーソナリティとシステム理解	事前学習	テキスト pp. 2～25 の内容を熟読しまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、

	個人、家族、グループ、地域をどうとらえるかについて理解する		第5回の講義時に提出する。
第5回	ケースマネジメントとは？： ケースマネジメントについてその基本と過程を学ぶ	事前学習	テキスト pp. 27～58（第2章ケースマネジメント）を熟読し、ケースマネジメントの重要性についてノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、次の講義時に提出する。
第6回	ケースマネジメントに必要な技術とは？： アセスメントに関する講義と演習 ケースマネジメントとソーシャルワークの関係を理解する	事前学習	テキスト pp. 27～58（第2章ケースマネジメント）を熟読し、ケースマネジメントの重要性についてノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、次の講義時に提出する。
第7回	グループ（集団）とソーシャルワーク： ソーシャルワークにおけるグループワークの意義について理解を深める	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱで学んだグループワークに関する理論を復習し、ノートにまとめる。テキスト pp. 59～80 参照。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第9回の講義時に提出する。
第8回	グループワークを用いた援助実践①：人間にとってグループ（集団）が意味するものは？グループ（集団）の特性とそれを活用するために必要な専門技術を学ぶ	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱで学んだグループワークに関する理論を復習し、ノートにまとめる。テキスト pp. 59～80 参照。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第9回の講義時に提出する。
第9回	グループワークを用いた援助実践②： （7回・8回をもとに）グループワーク演習	事前学習	7・8回で学んだグループを用いた支援に関する理論について内容をまとめる。
		事後学習	課題1を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第10回	グループワークに関するまとめ：演習のフィードバック	事前学習	テキスト pp. 59～80 を熟読し、グループに関する理論をまとめる。
		事後学習	課題1を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第11回	実践モデルとその意味： ソーシャルワーク実践理論が必要である意味を学ぶ	事前学習	テキスト pp. 128～136 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第13回の講義時に提出する。
第12回	ジェネラリスト・ソーシャルワークと実践モデルの関係： 事例を通じて実践モデルに関する理解を深める 治療モデル・生活モデル・ストレングスマデルについての学習	事前学習	テキスト pp. 137～148 を熟読し、「3つの実践モデル」についてノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第13回の講義時に提出する。
第13回	心理社会的アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp. 150～152 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	課題2を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第14回	事例考察による心理社会的アプローチの理解：グループ検討を通じて心理社会的アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp. 150～152 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	課題2を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第15回	行動変容アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp. 165～167 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第17回の講義時に提出する。
第16回	事例考察による行動変容アプローチの理解：グループ検討を通じて行動変容アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp. 165～167 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第17回の講義時に提出する。
第17回	課題中心アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp. 159～161 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第19回の講義時に提出する。
第18回	事例考察による課題中心アプローチの理解：グループ検討を通じて課題中心アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp. 159～161 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第19回の講義時に提出する。
第19回	機能的アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp. 153～155 を熟読し、その内容をノ

			ートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第21回の講義時に提出する。
第20回	事例考察による機能的アプローチの理解：グループ検討を通じて機能的アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp. 153～155 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第21回の講義時に提出する。
第21回	危機介入アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp. 162～164 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第23回の講義時に提出する。
第22回	事例考察による危機介入アプローチの理解：グループ検討を通じて危機介入アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp. 162～164 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第23回の講義時に提出する。
第23回	エンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp. 174～181 を熟読し、エンパワメントアプローチについてノートにまとめる。
		事後学習	第24回の講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第24回の講義時に提出する。
第24回	事例考察によるエンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチの理解：グループ検討を通じてエンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp. 174～181 を熟読し、ナラティブアプローチについてノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第25回の講義時に提出する。
第25回	認知アプローチの基盤を理解する その他アプローチについてその内容を確認する	事前学習	テキスト pp. 182～185 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第27回の講義時に提出する。
第26回	実践モデルについてのまとめ	事前学習	テキスト pp. 192～197 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第27回の講義時に提出する。
第27回	スーパービジョンの意義と目的：スーパービジョンを理解するうえで必要な知識を学習する スーパービジョンの実際：模擬的なスーパービジョンを体験する（ロールプレイの実施）	事前学習	テキスト pp. 199～213 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	ロールプレイを通じて学んだ事柄をレポートにまとめる。
第28回	コーディネーションとネットワーキングの目的と意義について理解する：事例を通じて目的、意義、必要とされる技術について理解を深める	事前学習	テキスト pp. 81～104 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	スーパービジョン、コーディネーションとネットワーキングに関する「確認テスト」を記入し、第29回の講義時に提出する。
第29回	これからのソーシャルワークの課題と展望	事前学習	これまでの学習を振り返り、疑問点を箇条書きにする。
		事後学習	学期末試験に向け、資料の整理と学習内容の確認を行う。
第30回	まとめ：これまでの学習を振り返りその内容を確認、今後の自己課題を明確にする。	事前学習	これまでの学習を振り返り、疑問点を箇条書きにする。
		事後学習	学期末試験に向け、資料の整理と学習内容の確認を行う。
<p>期末試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワーク実践アプローチに関する理解を問う。 ・ 講義内で扱った専門用語に関する理解を問う。 <p>※その他、試験の詳細は講義内で提示する。</p>			